

823
MS 45

湖月抄

1
2

140
720

帚木

欽とりて巻の名は源氏十六歳中将の御事
 宗祇に此巻と帚木と号するは源氏の若中河の御事なり
 かねてゆきし御事なるは空様のつゞきて達しそゆきし
 如くハ帚木の心と云ふもその原は道はわやうと云ふはつづれ
 ともまひりぬ女 妙もやにやう名なることにあつたもあつた
 ちしにこそつづりし奇あつた付く名にこれ坂上是則がその
 原やゆきもゆきう帚木の心と云ふてわらぬ若御と云ふ事と
 とれふ也帚木と云ふ義濃信濃兩國乃境は其原ゆきと云ふ事
 ありふ也云々してこれハ帚木と云ふ事やうゆき道と云ふれ
 ば此もなりあり然しわらぬと云ふれとわらぬらよと云ふ事
 此巻乃名るれども此巻は十四帖よと云ふは名と云ふは此巻
 にはつづれぬ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
 たりと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

この名は... 中將の推量よそ人のみすく
作らう後人のよそで作り
きく回さる

中將の推量よそ人のみすく
作らう後人のよそで作り
きく回さる

中將の推量よそ人のみすく
作らう後人のよそで作り
きく回さる

中將の推量よそ人のみすく
作らう後人のよそで作り
きく回さる

中將の推量よそ人のみすく
作らう後人のよそで作り
きく回さる

中將の推量よそ人のみすく
作らう後人のよそで作り
きく回さる

中將の推量よそ人のみすく
作らう後人のよそで作り
きく回さる

ありてしるるれいもよもひせきう
はるもかりしお海きんじきくさる

ありてしるるれいもよもひせきう
はるもかりしお海きんじきくさる

ありてしるるれいもよもひせきう
はるもかりしお海きんじきくさる

ありてしるるれいもよもひせきう
はるもかりしお海きんじきくさる

ありてしるるれいもよもひせきう
はるもかりしお海きんじきくさる

ありてしるるれいもよもひせきう
はるもかりしお海きんじきくさる

ありてしるるれいもよもひせきう
はるもかりしお海きんじきくさる

ありてしるるれいもよもひせきう
はるもかりしお海きんじきくさる

世のそとめ 西世のそと人

あつてはたし、

西世の人のそととふゆふ

たりのつれとも 細きあの

Pのあとの二のそと伴とそと

惟光のむとそとあつたのそと

なしてよあつたり

あつてはたし、

細きハ種姓ハそと人のそと

うくのそとあつたり

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

あつてはたし、

大弁方太の東門督まづのころいと非恭後の四位にりて 咲花一祿の去大政官の政務よりつらぬ人の作川
 巻は右巻東右大弁を非恭後とよりり 恭後は任せぬことよふ 師後花名の中弁は八世恭後の三四
 位とものとなりぬ 故よまづ 宰相よりつらぬ三位四位なるの事たりと 後をよせたり 後非青表紋
 は八世恭後の四位とあれ 八花名の中後とよまづ 用られ 諸抄の後八なるいふより
 又は久よかましく 後をよりつらぬ女と帝にとよりりて 過分の幸よりなる

多てあつてしまふ
 細言 不詮いかりよよりいふこと
 事の由よよりいふこと
 ことよりいふこと

何れ人のつらぬ
 何れ人のつらぬ人のいふ
 又どのみけ代の是よりい
 ひしてよりいふこと
 上臈のつらぬ
 何れ人のつらぬ

何れ人のつらぬ
 何れ人のつらぬ人のいふ
 又どのみけ代の是よりい
 ひしてよりいふこと
 上臈のつらぬ
 何れ人のつらぬ

何れ人のつらぬ
 何れ人のつらぬ人のいふ
 又どのみけ代の是よりい
 ひしてよりいふこと
 上臈のつらぬ
 何れ人のつらぬ

何れ人のつらぬ
 何れ人のつらぬ人のいふ
 又どのみけ代の是よりい
 ひしてよりいふこと
 上臈のつらぬ
 何れ人のつらぬ

何れ人のつらぬ
 何れ人のつらぬ人のいふ
 又どのみけ代の是よりい
 ひしてよりいふこと
 上臈のつらぬ
 何れ人のつらぬ

いふやうなことをいふよふに

そやが愛語のこころをいふ

時保の心よ夢上のうらみ

あつせうの 秋葉上の文はた

長母まに帝の御妹なれば

ふいふくびなれば源氏の

中心よいあつたふくまへ

あつたふくまへも 時保と

えきねとどり 但衣装の

名とつらふをいふ

らとつらふと 孟下

といわさして 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

らとつらふと 孟衣い

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

あひのゆくおやうしつらふ

かきしほ思まふしとてのん

師匠 藤四郎天下のていしほく

れすのりてまふ事おのん

ていしほくねちすむむか

てまかていしほく

それいあつひちしとわあ

つよわと解ちしとわあ

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

かきしほ思まふしとてのん

師匠 藤四郎天下のていしほく

れすのりてまふ事おのん

ていしほくねちすむむか

てまかていしほく

それいあつひちしとわあ

つよわと解ちしとわあ

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

ふみやとちとんていしほく

とらふとてふらふらふらとてふらふら
あられなりきとてふらふら

祇とてふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

女房ふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

いふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

孟とて古今よ男とてふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

後漢書註鄭玄曰礼記云
右之語後言在夫之後故以
為謂後建

わらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

青の尾かたれ尾とてふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

かろりよふめがね... 俗に濁世あり

一付のうらぐか... 奥入

遣書のおらうに... 我も人も

世のうらぐか... 世のうらぐか

持てたも... 持てたも

年のもう... 年のもう

びと... びと

又のうらぐか... 又のうらぐか

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

師徒... 師徒

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 俗に濁世あり

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

くもき... 尾のうらぐか

ひけり男のつとゆさすり
とどまりよめくふんささる
かみ舟のほてりふんく男の
くもさすりて色く人しく
そゆふふなわやあしとひん
く河文差 鴈鳥賦云 彦平君
不繫之舟

さうひまうさそりてさすり
くさあわりと男のやま
らうさるさくしてささる
ひ女の嫁姑もやそとのつ
くささりてさすりてさすり
あままりさりしとあま

さくくささりてさすり
あれをあらんおとらんと
もささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり

ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり

あままりさりしとあま
けよあわやうさすり
領状日 紙中將の御 師 鏡
ささりてさすりてさすり
師 鏡 さまさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり

ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり

ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり

ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり
ささりてさすりてさすり

ふとあつてあひさうさ
あまのいとしさうさ
うらなまはうらなま
のふらひとあつてあま
のうらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま

ついでの上りれでうらな
賀茂臨時祭調楽十一月
十日北陣梅假屋有後
有製膳勅孟等 後
のうらなまはうらなま
十一月酉也調不ハ午の日
大内少くあつてあまの
のうらなまはうらなま

昔は世代の奈のひわの
うらなまはうらなま
十二月三日因雨雪着深履云
ひわのうらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま

火のうらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま

いづれも人めり世とさび
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま

あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま

あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま

あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま

あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま

あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま
あつてあまのうらなま
うらなまはうらなま

あれがとんざり

孟ば女様とやらをいふは
てふはふふふとぬいり
とんざりやうふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

おのつよふのつよふ
細ぬちの女房のつよふ

もと夜寝の家へかへるは
ひやにひかりは後なり

河直隠味をよき越るふん
えうとよき曲く細この後

何ともいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

海なり細あれがとんざり
とんざりいふとんざり

みんねいふとんざり
とんざりいふとんざり

ておやの家よこふ
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

めうとんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

さげきりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

とんざりいふとんざり
とんざりいふとんざり

うらひのついでんり

かきつりし女の物さうくは
こととさ回娘とひ織のついで
七ツのついでんり

後撰のついでんり
田娘のついでんり
花もよ後漢の重永がついでんり
女妻とついでんり一月の織三百匹

そのついでんりのついでんり
裁りついでんり
ついでんり

そのついでんりのついでんり
細るついでんり
ついでんり

ついでんり
ついでんり

師匠 後ひついでんり

かきつりし女の物さうくは
こととさ回娘とひ織のついで
七ツのついでんり

後撰のついでんり
田娘のついでんり
花もよ後漢の重永がついでんり
女妻とついでんり一月の織三百匹

そのついでんりのついでんり
裁りついでんり
ついでんり

そのついでんりのついでんり
細るついでんり
ついでんり

ついでんり
ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

師匠 後ひついでんり

かきつりし女の物さうくは
こととさ回娘とひ織のついで
七ツのついでんり

後撰のついでんり
田娘のついでんり
花もよ後漢の重永がついでんり
女妻とついでんり一月の織三百匹

そのついでんりのついでんり
裁りついでんり
ついでんり

そのついでんりのついでんり
細るついでんり
ついでんり

ついでんり
ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

ついでんり

いふめとすうわの... 和琴なれし... 管絃も青よりつ...

今のは... 壺... 細平の... 今ひと...

今ひと... 壺... 細平の... 今ひと...

今ひと... 壺... 細平の... 今ひと...

今ひと... 壺... 細平の... 今ひと...

今ひと... 壺... 細平の... 今ひと...

今ひと... 壺... 細平の... 今ひと...

今ひと... 壺... 細平の... 今ひと...

忠のまうに 細 中持まとの
忠のまうに 細 中持まとの
あつらふとてをむくや
うごうとく

蘇の参玉ぼけのあくれ

細 引号は不可及只あつら
んかうん 紙註 河海より
あつらふり 又はあつら
りて只思はらうとく
うごうとく 丁つら
人どぞ 申ふハハガ
びの海へ 孟同前

河海てえがせらそあぬ
蘇の被ととくた

いつふう 春りてんあ
のまう 豊のまう

細 引号は不可及只あつら
のまう 豊のまう

あつらふり 年むら
りてあひかま

紙 孟同前 花 檮樟七年
とつててあつら

細 引号は不可及只あつら
あつらふり 年むら

ともつて 也 教奇撰
すこゝにめりん

好色すこゝにめりん 也 教奇撰
あつらふり 年むら

あつらふり 年むら
りてあひかま

或辨 わやまうりしてハ女のあ
りてあひかま

人の名もあつら
とらり

足あ、ぬやうあ
細 引号は不可及只あつら

れ 通 怨 ちあつら

いしあわちくみりけりてあつら

今より後いすてこのまうあつら

さほんのまう 小堀 八海のまう 蘇のまう

あけいささるんと 蘇のまうのく乃あ

られかどいせんよあつら

のまうもあつら

とかなとせあつらの海へあつら

あつらふり 年むら

たああつらん女よあつら

してせん人のまうあつら

とあつら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

あつらふり 年むら

らんろく...
細は文教の上へと路のありと

も根をさすまもまづりしと
それこそ諸君の心もさす
也
うへへうへうへうへうへうへ
ちんちんちんちんちんちんちん
んちんちんちんちんちんちんちん

五 教をさすくさすりさす
よは中將とさすりさすりさす

このんまうらうらうらうら
五 以中將のふらうたれたの四君
うそあう人あして文教工とあ
とさうさうさうさうさうさう
上は物やぶらう人あして作
まうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
四君さうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

うかり人ともさひさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

さだりうゝ花のつれと

只 嘆ろいふ花の秋の夜を

さへあつく物とてさしこゝに

ひららさうの床のぬめり

うらさ夕やととちり

らさよふ 奥入りとさ

よとふとさよふさうり

よとふとさよふさうり

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

竿 花のつれと

只 嘆ろいふ花の秋の夜を

さへあつく物とてさしこゝに

ひららさうの床のぬめり

うらさ夕やととちり

らさよふ 奥入りとさ

よとふとさよふさうり

よとふとさよふさうり

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

かろくは秋の夜を

人なりさるわ 和秘抄 わつらん

ひねこころし 孟一念一心
熊遊仙窟 三教指歸云寧
真術婆伽之焼胸

れいのさくれおとし
細き一りふさかしく向く花も
よハ中ねの相とさく 咲花よ
もさな相さうそれと更し

みんりしあふこと
孟中ねよりひんろくなんど
もさな相さうそれと更し
わたり

花さばらうさうてさうよ
つれもろくあはれうんく
あつとさうし 咲 せよとも
さうさうさうりさうさう

尾し
尾し
尾し
尾し

吉祥天女 帝釋のひとあ
端嚴の天女也最勝王經する
後世の女れつれもさう
ちあさうさきれの吉祥天女
そあさうさきれの吉祥天女
ほめさうさきれの吉祥天女
さうさうさうさうさう

文章のよき
文章のよき
文章のよき
文章のよき

あつとさうさうさうさう
あつとさうさうさうさう
あつとさうさうさうさう
あつとさうさうさうさう

わさくれけい
わさくれけい
わさくれけい
わさくれけい

とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう

とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう

とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう

とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう

とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう

とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう

とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう

とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう
とあつとさうさうさう

一はゆめめあしこいあもと
まのわらさぬとていふ今
ほろろらぬらんやわこいひし
やうにまり

わがうののらうとていふを
奥入 白氏文集秦中吟云 丰
人會良媒置酒滿平壘四
座助勿飲聽我歌西途富
親女易嫁 早輕其失食
家亦難嫁 六晚孝於姑 五
五 女ののらうとていふは
と置家の女の得失と論を
うたうが家の女の嫁娶を
のらう不足るぬやうにのら
こくゆげいもとていふとて
分りのこくもとていふ家の女
婿礼をいふとていふのらう
うたれとていふ成ぬれとて
うたれとていふ成ぬれとて
士の女食家とていふとて
アよとていふとていふ

くろくしよ物と ま名うて
書簡やうへしとていふ
理くともとていふ

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の
ゆめゆめとていふ詩の

せまりめきつよ世のふとけりいぢりうらんどのん

わすれぬひきぬねと 世やあねのまうけてはせむひまづねともふりあう人のういとう

の目とよひくわりのうすのふりごう自然よゆわうらん もろにあうして又女又うとまをふ

さかしてせんいあうらん あうらん

あは惜まの女のふりあう あは惜まの女のふりあう

さげせよとわさうのふりあう さげせよとわさうのふりあう

さうさう さうさう

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

わゆるめて 細因八の巻

すうゆへにやと心辨りて信違

うのろこつましく 細因氏の

まごころの不知して心ひま

てふのろこつましく信違をとも

の用んあつたさ事の教へ師

の信違を教へられらつたひあ

るあつたひあつたひあつた

女のうあてこのまうのぬるま

とがり性 細因氏の初く權馬

の吾家の奇 我輩ががら性

もくけらりてあつたあつた

よせんんんんあつたあつた

びごごごごのあつたあつた

え知ん今因氏のまのん今

て信違をひあつたあつた

うろこのんもあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

女のくせ 細 世百のまがら
中めと女一腹くらあさ
孟女ト小池ハ入るり下
るりりくは不定のおと
君とこそ 細 ちうとこそ
あつめとせり

細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ

細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ

細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ

細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ

細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ
細 ちうとこそ

いよねよとんとつづるわの終るをせし世をも

ささめりてこのかたなるをいしゆとあかき

あひよくして地しゆりなり世中といふも

のさあとも今もむしりさささるりさ

しゆねちゆりさつりさ女のもくさる

うらひらるるんあられはゆらわらじとてし

すま伊太のぬりつづくや君とあつらんか

いづれわさりのまうともをいさひさくゆめ

とさささくさささささささささささささ

てらげひさゆりささささささささささ

とささささささささささささささささ

あはめりささささささささささささ

とさささささささささささささささ

とささささささささささささささ

とさささささささささささささ

とさささささささささささささ

とさささささささささささささ

とさささささささささささささ

とさささささささささささささ

とさささささささささささささ

とさささささささささささささ

とさささささささささささささ

りくろり 細 中將とて
なり 師 中將の君のゆかり
あかりてきささりとせうく
中將つてきささし 細 保成甫
宮中おこ中將君のゆかり
よそよそとてきささし
あかりてきささし
もよよとてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし

こいに人とも
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし

あつてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし

あつてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし

うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし
あつてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし
あつてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし

あつてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし
あつてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし
あつてきささし
うらつひよふらつひぬ
細 保の初よりうらつひを
うらつひよふらつひぬ
年月の志ありてきささし
こそ今東方遠もわたりて
とさりあつてきささし

のりせりや 細河 狐狭るうね世のふ乃ほよ又ありんさのくもくふるくはとくも 花
ふくう 後氏よどれれとてまうくいしゆうらうまうらうとてまふさう 後やまもれん
とかり 空探のらく後世の只のられといえんよあかん

いさうくりかり 細河

まりてるうかりても口唇が
せくがさぬいさうさうらう
後うりせしるのみそいどのみ
がまをしかりうさういさうさう
らざうまあればそれとて
うさねといらの中よあ
ねいぬらん 孟月

いさうかりけし 細河

よあふりてりやどとみさ
とみその人のさうくに今
よみさとみひそとあつと
けそとひささうく月か
更師は有と和わげよう
らのとこはさうまよあ
ていさうらう我まをとい
ていさうさうと我者さ
まもいさう人のさうん
よものん今空探もあま
いと後氏ようかりかり

のりせりや 細河 狐狭るうね世のふ乃ほよ又ありんさのくもくふるくはとくも 花
ふくう 後氏よどれれとてまうくいしゆうらうまうらうとてまふさう 後やまもれん
とかり 空探のらく後世の只のられといえんよあかん

いさうかりけし 細河

まりてるうかりても口唇が
せくがさぬいさうさうらう
後うりせしるのみそいどのみ
がまをしかりうさういさうさう
らざうまあればそれとて
うさねといらの中よあ
ねいぬらん 孟月

いさうかりけし 細河

まりてるうかりても口唇が
せくがさぬいさうさうらう
後うりせしるのみそいどのみ
がまをしかりうさういさうさう
らざうまあればそれとて
うさねといらの中よあ
ねいぬらん 孟月

とあひまかたぐさあまうとてさうくハトナリ

うさねの箱よ思ゆるよらひるくあま

あまのいさうかりけし

あまのいさうかりけし

らざうまあればそれとて

かまぬんぐゆさあまうさうさう

かりようの車ひさうさうさう

うさねのいさうかりけし

わらういさうかりけし

うのつわぬいさうかりけし

わらういさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし

わらういさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし

わらういさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし

わらういさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし

わらういさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし
うのつわぬいさうかりけし

ついでにや 細 ちりやうの
ゆいづりりやうの細やう
まどまどついでにやうの中ぬよ今
ねまろすやうの中ぬよ今
んのらへ 師 ちりの飛ぶを
恨ももついでにやうのねよ
らうもやうのと別とやう
ついでにやうのついでにやう
如半生へきやうの細やうの
あひし 伊よちとあまま
孟 貞女 林 妙 ち
あひしやうのついでにやう
あままやうのついでにやう
のまよと伊よのまよま
まよと伊よまよまよま
一 伊よまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま

ついでにや 細 ちりやうの
ゆいづりりやうの細やう
まどまどついでにやうの中ぬよ今
ねまろすやうの中ぬよ今
んのらへ 師 ちりの飛ぶを
恨ももついでにやうのねよ
らうもやうのと別とやう
ついでにやうのついでにやう
如半生へきやうの細やうの
あひし 伊よちとあまま
孟 貞女 林 妙 ち
あひしやうのついでにやう
あままやうのついでにやう
のまよと伊よのまよま
まよと伊よまよまよま
一 伊よまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま

ついでにや 細 ちりやうの
ゆいづりりやうの細やう
まどまどついでにやうの中ぬよ今
ねまろすやうの中ぬよ今
んのらへ 師 ちりの飛ぶを
恨ももついでにやうのねよ
らうもやうのと別とやう
ついでにやうのついでにやう
如半生へきやうの細やうの
あひし 伊よちとあまま
孟 貞女 林 妙 ち
あひしやうのついでにやう
あままやうのついでにやう
のまよと伊よのまよま
まよと伊よまよまよま
一 伊よまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま

ついでにや 細 ちりやうの
ゆいづりりやうの細やう
まどまどついでにやうの中ぬよ今
ねまろすやうの中ぬよ今
んのらへ 師 ちりの飛ぶを
恨ももついでにやうのねよ
らうもやうのと別とやう
ついでにやうのついでにやう
如半生へきやうの細やうの
あひし 伊よちとあまま
孟 貞女 林 妙 ち
あひしやうのついでにやう
あままやうのついでにやう
のまよと伊よのまよま
まよと伊よまよまよま
一 伊よまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま
まよまよまよまよまよま

かよふらん 細 ばあやの
まのひありさのうらうらにまよ
院とて上取あり ぼくも
葵との所なく末の初より
みよりの 昨 せりおあぐ下の
知よみ也

とくはうらうらハ 長谷の空
深はうらうらとていれねども
りしうらうらとていれねども
なまらうらうらとていれねども

はらうらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

の初はうらうらとていれねども
細 ばあやの
うらうらとていれねども

中絶そのよ 上は長谷
とていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

細 ばあやの
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

別腹の弟あり 孟 空際
の夜よりのうらうらとていれねども
うらうらとていれねども

世のうらうら 細 継母のうらうら
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

河 詩君 擬 蜂 君 莫 擬 變 君
父子成 材 根 百 氏 文集 以外
和 漢 例 多 也 師 此 継 母 樓

とれして 継 子 とも せし
父 とも せし とも せし

とらうらうらとていれねども
あきともうらうらとていれねども
ふあひうらうらとていれねども
空 際

のうらうらとていれねども
くうらうらとていれねども
どらうらとていれねども

まれの女と中のふとるみよりのうらうらとていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

うらうらとていれねども
うらうらとていれねども
うらうらとていれねども

一 読せしむる

細 空探のふりかへり
きれたまはしむるにたたり
うらやましくも

小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

師 小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

細 空探のふりかへり
きれたまはしむるにたたり
うらやましくも

細 小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

細 空探のふりかへり
きれたまはしむるにたたり
うらやましくも

小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

師 小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

細 空探のふりかへり
きれたまはしむるにたたり
うらやましくも

細 小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

細 空探のふりかへり
きれたまはしむるにたたり
うらやましくも

小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

師 小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

細 空探のふりかへり
きれたまはしむるにたたり
うらやましくも

細 小 君うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも
うらやましくも

細 空探のふりかへり
きれたまはしむるにたたり
うらやましくも

めい...
源氏のあすはつてくま
つ...

あこ... 細
とハ小君と...
河云吾子日本紀 我子五音
横通
味

細 装束
河内蔵外
御取...
...

そ...
細小君の相
め...
...

あ...
小君と...
源の...
...

あ...
小君...
...

かなはさしきりしけ
 只よつてのさうく思われ
 へは氏のあつてふれい
 ちくは氏をきつていん
 のあつていん
 けり
 海氏の市所遊して得り
 ありていん
 市所遊して得り
 ありていん

空際とつれりし
 空際とつれりし
 空際とつれりし

不離り 不避り
 不離り 不避り

空際とつれりし
 空際とつれりし
 空際とつれりし

てがはさしきりし
 只よつてのさうく思われ
 へは氏のあつてふれい
 ちくは氏をきつていん
 のあつていん
 けり
 海氏の市所遊して得り
 ありていん
 市所遊して得り
 ありていん

空際とつれりし
 空際とつれりし
 空際とつれりし

